



学校だより

みどりの

学ぶ当事者 支える当事者 緑野小学校

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和5年9月1日

緑野小学校の子供たちの未来

校長 遠藤 昌司

2学期が始まり、子供たちが戻ってきた学校は、また賑やかになりました。大きな事故や怪我などはなかったようで安心しているところです。この夏休みは地域のお祭りも再開され、子供たちも喜んで参加していたようでした。お出かけや親せきの方に会う機会、親子でゆっくり過ごす時間もあったかと思いますが、家庭・地域で過ごす中で、いつもと違った自主的行動や人とのかかわりが見られたことでしょう。

始業式の日には各担任が子供たちを迎え入れましたが、黒板を使うクラスも多くあり、中にはイラストを散りばめながら「どんな夏休みでしたか？」という投げかけや「お帰り」という言葉かけがありました。長い休みの後は子供たちが不安な気持ちになることもあり、配慮が必要であると言われるようになっていきます。各担任も十分に気を配っていますので、ご心配な点がありましたら、遠慮なくご相談ください。

この夏、本にまつわる2つのことが印象に残りました。一つ目は映画『君たちはどう生きるか』の公開です。以前にも触れましたが、原作（吉野源三郎 作）自体は戦前に発表されたもので、当時もベストセラーになりました。数年前に出版された『漫画 君たちはどう生きるか』も時代を超えて新たに人気を集めたことが話題になり、本校の図書館でも貸し出しされています。半年ほど前にスタジオジブリによる映画化が発表され、数々の名作を世に出してきた宮崎駿監督の手でどのように仕上がるのか楽しみにしていました。作品自体は、主人公がこの小説を読むシーンが描かれてはいるものの、原作とは全く異なるオリジナルのストーリーです。解釈が難解なようで、これから色々な解説もされていくのだらうと思いますが、未来に生きる子供たちへのメッセージが込められているに違いありません。

もう一つは『はだしのゲン』に関することです。連載開始から50年の節目ということもあり、ニュース番組などで11年前に亡くなった作者の中沢啓治さんと共に作品が紹介されていました。被爆者の方が当時の様子を話される場面もありましたが、90歳を超えたような方が今でも涙ながらに語る姿からは、実体験された方にとってはいつまでもつらい記憶なのだということを改めて気付かされました。

自分が子供の頃からすると、世の中が大きく変わってきたことを実感します。緑野小学校の子供たちがどう生きるか、過去に学び、未来を見据え、今を大事にすることを望みたいです。

電話対応時間が戻りました

夏季休業の終了に伴い、通常の電話対応時間（8：00～17：30）に戻っています。なお、教職員の定時退勤の状況によっては、17：00で自動音声対応になる場合もありますのでご承知おきください。